

## どこでもドアの代替品

教育研修部

西村 隆太郎

RYUTARO NISHIMURA

先日、出張で富良野を訪れた。周囲に誰もいない一本道を歩いてみた。都会の喧騒を忘れ、心が満たされた。しかし、それと同時に、時間とお金をかけなければこの景色を味わえないことにもどかしさを感じた。都会に住む者は田舎を求め、田舎に住む者は都会を求める。どこでもドアがあったらいいのに。誰も一度は妄想する、遠く離れた場所にワープするといった技術は、我々が生きているうちは体験できないだろう。

しかし、実際にその場所に行くことはできないが、行った気分になれる体験は、メタバース（仮想空間）において、そう遠くない未来で味わうことができるのではないだろうか。

現在、デバイスの技術進歩の遅れにより、メタバースの普及は難航している。メタバースのフィールドとなるコンテンツ側は、同時接続の通

信速度や3DCGのクオリティなど既になんかのレベルまで達しているが、我々がリアルに近いと感じるためには、VRゴーグルに代わる、より手軽でリアリ

ティの高い革新的なデバイスを生み出す必要がある。

デバイスの革命により、メタバースの世界を現実世界と差異なく感じることができるようになれば、どこでもドアを欲しがるとはなくなるのかもしれない。



## 編集後記

本号の事業報告では、6年ぶりの開催となった日・台・韓の三国間ネットワーク会議の開催について報告しています。各国の資源循環に向けた制度、取り組みの状況のほか、廃棄物管理システムに蓄積されたビッグデータの活用事例などの情報交換を行いました。

調査報告では、資源循環、サーキュラエコノミーの取り組みが進む欧州の状況を把握するため、オランダ・ベルギーの企業を訪問した内容を報告しています。前編を秋号、後編を冬号に掲載します。

今回で2回目の大迫様の連載では、災害廃棄物対策について、

国の取り組みや自治体が行う災害廃棄物対策のポイント、また、巨大災害に向けた平時からの備えについて9頁にわたりご解説いただいています。

産廃鼎談では、リバー株式会社の取締役会長の鈴木孝雄様をお迎えし、鉄リサイクル業界の近代化、今後のリサイクルビジネスについてお話しいただきました。静脈産業と動脈産業の連携なくして高度循環型社会の実現はできないと、垣根を超えた総合リサイクル業の必要を強調されておりました。

最後に、ご執筆いただいた皆様、取材にご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。（広報室）

■本誌に関する連絡先：総務部広報室（e-mail:jigy@jwnet.or.jp）

### <アンケートへのご協力のおお願い>

より充実した誌面作りのために、本誌の記事内容等に関する読者アンケートを当センターホームページ（以下のURL）に掲載しています。

本誌に関するご意見、ご要望を是非、お聞かせください。

URL [https://www.jwnet.or.jp/info/kikansi/kikansi\\_anq/index.html](https://www.jwnet.or.jp/info/kikansi/kikansi_anq/index.html)

### JW センター情報（季刊）VOL.24 NO.3

発行日：2024年10月15日発行 発行人：関荘一郎

発行所：公益財団法人 日本産業廃棄物処理振興センター

〒110-0005 東京都台東区上野三丁目24番6号  
上野フロンティアタワー 13階

TEL: 03-5807-5911 FAX: 03-5807-5912

<https://www.jwnet.or.jp/>

デザイン・印刷：株式会社太陽美術